

福島原発をゆく(2)

調査2日目は朝から福島第一原発に向かった。その途中、いわき市久乃浜町のコミュニティ商業施設「浜風きらら」に立ち寄った。地域住民が気軽に集える施設としてつくられ、郵便局や商工会などもあった。掲示されていた写真のように、この地域は津波の被害が甚大だった。すぐ近くに、太平洋の大海原が広がる。津波後に焼失した家屋も多くあったようで、今は真新しい住宅が建ち並んでいる。



福島というと原発事故ばかり注目されるが、「浜通り」の長い海岸線一帯は、津波被害も大きかった。原発事故も巨大津波による電源喪失がきっかけとなった。福島第二原発の津波浸水域は限定的だったが、第一原発は施設全域が浸水した（写真はヒアリング時の東電資料による）。



原発視察の前に、地元紙「福島民報」の山崎理史さんから、3月1日発行の「福島の今」をテーマにした特集をもとにレクチャーを受けた。記事は「帰還困難区域」など多くの情報がビジュアルにまとめてある。地元紙の足もとからの持続的な取材、報道に期待したい。

記事の12市町村の住民登録人口と避難者数に注目した。楡葉町の「未集計」について質問したが、この時点で役場から情報が得られていない、避難者数の情報はつかみにくいとのことだ。



12市町村の住民登録人口と避難者数	
大熊町 住民登録人口: 10,520人 市内避難者数: 7,969人 市内避難率: 2,548人	南相馬市 住民登録人口: 61,350人 市内避難者数: 2,614人 市内避難率: 3,986人
富岡町 住民登録人口: 13,222人 市内避難者数: 10,439人 市内避難率: 2,785人	新井町 住民登録人口: 5,864人 市内避難者数: 4,961人 市内避難率: 295人
田村市 住民登録人口: 37,822人 市内避難者数: 288人 市内避難率: 54人	川俣町 住民登録人口: 13,650人 市内避難者数: 813人 市内避難率: 201人
川内村 住民登録人口: 2,710人 市内避難者数: 380人 市内避難率: 136人	浪江町 住民登録人口: 17,981人 市内避難者数: 14,369人 市内避難率: 6,279人
楡葉町 住民登録人口: 7,140人 市内避難者数: 未集計 市内避難率: 未集計	双葉町 住民登録人口: 6,073人 市内避難者数: 4,087人 市内避難率: 2,831人
広野町 住民登録人口: 4,096人 市内避難者数: 658人 市内避難率: 166人	福島町 住民登録人口: 1,439人 市内避難者数: 1,080人 市内避難率: 89人

大熊町と双葉町、飯館村は住民登録人口と避難者数がほぼ同じであり、浪江町は避難者の方が3000人近く多い。「帰還困難区域」のなかで、自治体間の違いにも注目したい。

質疑のなかで、山崎さんから復興の自治体間(南北)格差、若い人が戻らないことによる人出不足、産業や自治体の現状などの説明があった。

原発周辺地域の現状を大まかに把握できた。東電からの説明、第一原発視察へと続く。

(2018年6月28日)